



# Let's go to the Park ~公園へ行こう~

エプロン通信員  
備瀬 真理

「備瀬さん エプロン通信員になりませんか？」と声を掛けられ「順番からいくと...備瀬さんが最初ですね」と、何の順番か不明のまま「あれよ、あれよ」と書くことになりました。それからというものの、日々変わりゆく毎日「あっ!」このことを書こう。やっぱり...と眠れぬ日々を送りました(笑)それ位ちゃんとせんといかん!と思っ書いています。それ何語?と言われるとおり、博多から八年前にこちらへ参りました。子供が七歳、五歳、二歳で亜熱帯気候にピッタリの黄金博多弁をしゃべっています。毎日、ピーチクパーチク動物園のようです。

前置きはこれくらいにして、宜野湾市について書いていこうと思います。今回は「公園」がテーマです。沖縄には、まだまだ自然に囲まれた素敵な公園が至る所にあつて、それぞれがおもしろい。思わず子供に戻ってしまいます。

まず、海浜公園。広大な敷地。トロピもあつて、すごく遊べる。春には、横浜ベイスタースがキャンプを張る為、鍛え上げられたイケメン?達に会える!夏は、海にっかりに行きます。はごろも祭りもありますよ。

続いて、市役所の近くのピンク公園(と呼んでいます)。※正式には、あすなろ公園。夕方になると、くねくねした幾つものすべり台を色んな小学校からの子供達がどこからともなくすべり降りてくる(ある意味、異文化交流)。

そして、何と言つても、いいこの市民パーク。合言葉は「いこパーク」。らしいです。野球もサッカーもできる芝あり、テニス、バスケット、スケボ、何でもござれ。今は噴水もできていますよ。夏の暑い日、子供達はここで汗を洗い流すのでしよう。お散歩、ジョギングと老若男女が集えます。

息子達は、スケボ一したい。とはりきり、熟練者の方々のジャマになりながら、技を盗んでいます。何年かかるとやら?私も乗ってみました。これが難しいんです。まず、身軽にならない!と思いましたが、いつの日か、公園までスケボで滑って行きたいな。

外で遊ぶ機会が多くなるこれからの季節、みんなでレッツ・ゴー・トゥ・ザ・パーク!



## 琉球王国の小さな史跡

写真①に見える、なにやら文字らしきものが刻まれた謎の物体。これは伊佐に現存する印部土手石(通称・ハル石)です。宜野湾市ではルリグワ、やバンドウイ、なども呼ばれています。

そもそもハル石とは、琉球王国時代に行われた乾隆検地の図根点(基点)のことです。石高の増(年貢の増税)を要求する薩摩藩に対し、琉球王府が沖縄島やその周辺諸島を対象に、田畠を確定するため独自の測量を行いました。

写真のハル石のように、周囲を土手に囲まれ、当時の場所のまま残存するものはきわめて貴重です。◆また、一般的にハル石には原名(小字名)や、ひらがなや力タカナで示される「い」「ろ」「は」など



▲写真① 2009(平成21)年撮影 伊佐の「たけたう原」銘のハル石

の順序記号が刻まれています。写真②にもあるように、伊佐のハル石には「ワ」たけたう原が確認できます。

◆かつては各間切(現在の市町村に相当)に二百〜三百基ほど、沖縄全体では七千〜八千基ほど設置されたと言われているハル石ですが、明治時代の土地整理の際に、それらのほとんどが撤去され、現在、宜野湾市内では約二十基の現存が確認されるのみとなっています。

◆今後も新たな発見が期待されますが、ひよっとするとあなたのご自宅の近くにも埋もれているかもしれません。見かけた方はぜひご一報を...



▲写真② 「ワ」たけたう原」銘のハル石の拓本

『宜野湾市史』への問い合わせ  
教育委員会文化課  
☎八九三―四四三〇